

静岡県での宝永地震(1707)の津波浸水高

Distribution of the height of the tsunami of the 1707 Hoen earthquake on the coast of Shizuoka prefecture

都司 嘉宣^{1*}, 今井健太郎², 行谷佑一³, 矢沼 隆⁴, 今村文彦²

Yoshinobu Tsuji^{1*}, Kentaro Imai², Yuichi Namegaya³, Takashi Yanuma⁴, Fumihiko Imamura²

¹ 東大地震研, ² 東北大災害制御研究センター, ³ 産業総合研究所, ⁴ (株) パスコ

¹ Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, ² Disaster Control Res. Cent., Tohoku Univ, ³ AIST, ⁴ PASCO Co. Ltd.

宝永4年10月4日(1707年10月28日)に、東海沖、及び南海沖の巨大地震を合わせた震源域で発生した、連動型巨大地震である宝永地震の津波は、下田、浜名湖地方をはじめとして各地に浸水高さの記録が残存している。

下田では、『平井平次郎手記』(武者 -p186)に「此時波先宝福寺中後園竹林の際に至る」とあり、現在宝福寺背後の墓地の後ろの駐車場が以前は竹林であった(下田八幡神社談)ということからその標高を測定して、その標高TP5.0mを津波浸水高さとした。下田には、市街地南端の長楽寺の南側は「七軒町」と呼ばれ、ここは宝永津波で七軒残ったことに由来する。この伝承から5.1mを得た。下田の西南西約8キロに位置する湊には『山田健治所蔵文書』(武者 -p210)に「寺ノ下まで潮入。家前道に藪際迄、大原丁、田尻畑・和田の前まで、田尻より大山口まで」と記録されている。この文に現れる6個の小字名はこの修福寺の御住職によりすべて現代地図上に御教示を賜り、津波浸水高さを測定することが出来た(Fig. 3)。寺下は位置がピンポイントで指定できないため精度が劣るが、山田健治の「家(自宅)前道」の3.4m、「和田原の前田尻畑」の3.0mは信頼度の高い値である。

沼津市内浦三津には『大川文作所蔵文書』(武者 -p196)に「当村も小島筋浜の方の家々へは床上二三尺四五尺宛津浪上り」の記載から、3.7mと測定された。

静岡市清水区三保では、『三保村御用覚』(遠藤邦夫氏文書)に「札ノ辻まで」とされ、三保生涯学習交流館の杉山敏久館長にその正確な位置のご教示を頂き、3.9mと測定された。この数値は、後年の安政東海地震(1854)による地変補正をしていない値である。

牧ノ原市相良では、相良史料館の御教示により、『相良史稿』に堀の水路を来た廻船が乗り上げたという「次左衛門中屋敷」の位置がピンポイントで知られ、堀の上端の標高4.6mを得た(図2)。船の触先はこれに乗り上げたので30cmを加え、安政東海地震で三尺余(0.9m)隆起していることを考慮すれば、ここで津波高さは4.0mとなる。浜名湖口の新居関所で津波の高さ1丈と目撃された数値はそのまま3mとする。愛知県境に近い東海道白須賀宿は、宝永津波に壊滅して、宿場全体が丘陵の上に移転した。元白須賀の旧東海道の路面は標高6.9m前後であるが、少なくとも地上2mは冠水したはずであるから9mとする。以上により図1を得る。

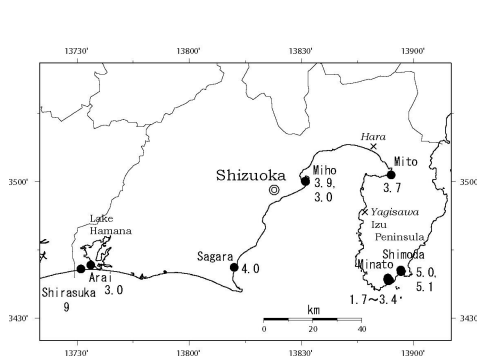


Fig. 1 Tsunami height distribution of the 1707 Hoen earthquake in Shizuoka prefecture

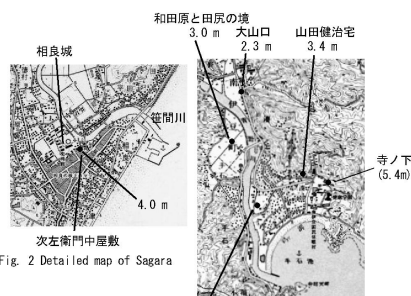


Fig. 2 Detailed map of Sagara

Fig. 3 Detailed map of 1.7 m Minato, Shimoda city

キーワード: 東海地震, 宝永地震, 連動型巨大地震, 津波, 静岡県

Keywords: the Tokai earthquake, the 1707 Hoen earthquake, joint gigantic earthquake, tsunami, Shizuoka prefecture